

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0175700350		
法人名	株式会社 一条		
事業所名	グループホームほろむい二号館(やさし荘)		
所在地	岩見沢市幌向北2条1丁目611番地109		
自己評価作成日	平成22年8月11日	評価結果市町村受理日	平成22年11月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設内の生活もご家族のご協力と職員の良好なチームケアを基盤に自分らしく安全・安全な生活を提供している。  
 また、外出行事にも率先的に出掛け、月1回の温泉ツアーや季節に合わせた外出ツアー・地域での催し物への参加など入居者様の思い出に残る生活を提供してりる。  
 防火体制万全で全館オール電化であり、スプリンクラー・緊急通報装置・火災報知機等の設置、カーテン・絨毯等の防災対策もしている。また、年2回の全体避難訓練も消防職員立会いのもと、日中・夜間を想定して行なっている。  
 常勤の看護師を配置して日常的な体調管理や緊急の対応も協力医療機関との連携を取り対応している。  
 ご利用者のご家族が宿泊できる部屋を完備し状態に応じて提供している。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://system.kaigoicho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0175700350&amp;SCD=320">http://system.kaigoicho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0175700350&amp;SCD=320</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3番地北1条ビル3階
訪問調査日	平成 22 年 10 月 20 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用に際しての家族からの情報など、アセスメントの緻密さは特筆に値します。生活歴なども幼年期から8段階にわたり詳細な記述が見られ、職員とのコミュニケーションおよび認知症セラピーの効果ある手法としてのバリデーションにも役立つものとなっています。発症の経過シート、日常生活の様子、生活のリズム、幾多の趣向など、利用者の暮らしのプランに欠かせない要素が整然と描かれています。また、災害への配慮についても避難行動の際、利用者の状況を協力者にも理解して頂く表示などの工夫が見られます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全体会議・ユニット会議を定期的に行い、理念を基に話し合いをしている。また、新しい職員の方にもオリエンテーションの中で理念について一人一人が理解できるよう説明している。	「安心して暮らすということ」「自分らしく生きるということ」のシンプルかつ奥の深い理念は、職員間で共有し、利用者の生活プランへの支援として実践しています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入、幾つかの地域行事等にも引き続き参加し、地域児童館やボランティアの方々による催し物などの交流を継続的に行っており、草刈や花壇の手入れにも率先的に参加している。	新興住宅地の一角を占めるホームは、地域に溶け込んで建てられています。地域の一員としての認識が強く、町内会行事への参加や児童との交流を通じて、利用者の生活支援が日々行われています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	グループ内の居宅介護支援事業所を通じて、高齢者介護について地域の方への情報発信を行っている。定期的に町内会向けにお便りを作成し、グループホーム内の情報を地域に回覧しています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ここ1年間は定期的に運営推進会議を行っていませんが、地域に根ざしたグループホームのあり方を念頭に置く為、町内会の役員の方にもご出席頂き、出された意見を実践しています。	町内会など地域の方々や市の担当者などの出席を得て開催されています。昨年から今年にかけて若干の空白もありましたが、3月以降順調に開催されています。	今後も2ヵ月毎の定期開催が期待されます。会議の折、評価に対する対応への進捗状況を公表したり、また、火災など避難への対応で、地域住民の方々への具体的な協力要請を協議するなどの取り組みを期待します。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の議事録やグループホームのお便りを届けたりと、その都度、運営上の疑問点や問題点を話をさせていただくと共に電話などで連絡を取り合い市との繋がりに努めている。	市の担当者に度々訪問して頂くなど、ホームとの連携は良くできています。運営に関する諸問題など気軽に相談できる関係が構築されており、サービスの質の向上に向けた協働が期待されます。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホーム長会議・ユニット会議で随時身体拘束を行わないケアを話し合い、全職員が身体拘束しないケアをマニュアルを基にし話し合い、理解したうえで実行している。	法人内のホーム長会議やユニット会議を通して研鑽を重ね、身体拘束をしないケアの実践が日常的に行われています。夜間以外の玄関施錠もなく、職員の見守りにより、安心して暮らしへの支援が行われています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議で虐待行為につながらないよう、常日頃から口答ではありますが周知し、外部で起きた出来事をプリントし、朝のミーティングでプリントを基に周知し職員が情報を得るよう努力している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在発生はしていませんが、ホーム長会議などで地域権利擁護事業や成年後見制度について、介護支援専門員を中心に内部研修の機会を設け、職員全員に理解が出来るよう計画している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間を掛け解りやすく説明し、疑問点を話し合い利用者や家族に理解・納得して頂き、署名・捺印を頂いている。その後の疑問点について随時対応している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員と気兼ねなく話せる関係を築いている。また、設置した苦情箱や直接、意見・不満・苦情を伝えられる様な関係を築き、その都度会議で対応策を検討・改善策を家族に提供し業務に反映させている。	家族の訪問頻度は非常に高く、サービスやホームの運営面でも家族と話しあう場面が多い状況です。職員は家族との気兼ねない関係作りを心がけて、意見・要望などを運営に反映するよう努めています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	普段より、職員とのコミュニケーションをとり気軽に話せる環境を作っています。意見や提案を業務内容・介助方法などで改善を行い、改善できない場合は会議にて意見を頂き、現場で反映させている。	ユニット会議や全体会議では、職員の意見や提案が活発に出されるよう普段からコミュニケーションを大切にしています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	会議を随時設けてストレス軽減やより働きやすい環境作りを話し合い改善できる様心掛けている。運営者が管理者や職員個々のシフト希望を基に作成を行っている。職員の研修・資格等のスキルアップ支援を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間研修計画はないが、施設外での認知症介護研修を毎年数名受講している。また、その他研修・講習の情報があれば、随時、全職員に回覧し希望者には受講していただく。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との間でネットワーク作りや勉強会の話が出ているが、まだ実現には至っていない。営業を兼ねて施設長自ら他のグループホームに伺い交流を図るよう努力している。インフォーマルな部分において同業者と交流し情報を得ている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日常生活の中で雰囲気や言葉から察知できるような協力し、居室に訪室し、話を聞く機会をつくり会話多く持つことより信頼関係を築けるよう努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時には家族に日々の状況等話し、会話しやすい状況作りにつとめ家族の不安や困っていることを聞き答えられるよう努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時には常に「その人にとってどのような支援が必要か。私たちがすべきことは何か。他のサービスも利用すべきか」等、本人、家族の思いを理解し対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族は利用者にとってのキーマンとして捉え、家族からの情報を元に職員が対応し、またその状況を家族に報告する事により、家族と情報を共有し、利用者に対し適切な支援をしていくよう努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族は利用者にとってのキーマンとして捉え、家族からの情報を元に職員が対応し、またその状況を家族に報告することにより、職員と家族で情報を共有し、利用者に対し、適切な支援をしていくよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族、縁戚者だけでなく、家族の方から聞いて訪ねてこられた知人等の来訪者の対応も行い、家族の方にもそのことを報告しています。	馴染みの美容院への通いを支援するほか、以前に暮らしていた住宅近辺を訪問して馴染みの関係維持を支援するよう努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	居室にこもりがちな方には、居間に誘い利用者同士の会話交流ができるように心掛け、会話が乏しい時はスタッフが間に入り会話が保てるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も「何時でも相談連絡下さい」との声掛けをさせて頂き、こちらからも家族宅に出向き、利用者の状況の把握、家族の相談しやすい状況作りに努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族との会話の中で希望を聞き、できる限り意向に沿うことができよう努めている。	利用時のアセスメントを有効に活用して、利用者の思いや意向の把握に役立っているほか、家族からの情報を大切にしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族より生活歴を聞き把握すると共に日々の会話の中から今までの生活の流れを聞き取り、記録に残し、職員がこれを把握しケアに活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	常に一人ひとりを見守り、心身や体調の小さな変化にも気づけるように、職員間で協力し情報の共有を図っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族、介護支援専門員に利用者の状況報告をし、話し合い作成している。	アセスメントを積み重ね、日々のモニタリングを通し、利用者の生活プランとして暮らしを支える最適な介護計画が作られています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にファイルを用意し、日常の様子を細かく記録したものを共有し、実践や介護計画の見直しに活かしている。本人の発言や職員の声掛け等も記入している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況や要望に応じ通院や送迎等必要な支援に応じられるよう努めている。家族と一緒に受診等、お願いすることもある。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	幌向地域ボランティアの方々からの定期的な協力、また、町内会皆様のご協力により、地域の草刈りや花壇の手入れ等の行事にも参加している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な訪問診療を受け普段より医療機関との連携を取っている。24時間連絡体制が取れており素早く対応できる体制を整えている。希望する医師への受診も付き添いのもと対応している。	これまで通い馴れたかかりつけ医への通院支援が行われていますが、ホームの協力医への移行が多く、定期的な治療や24時間対応の迅速な支援が受けられるよう努めています。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所として准看護師2名が勤務し、掛かりつけの医師または提携クリニックの医師に健康管理、状態の変化など随時相談し支援を行っている。また、普段より看護職員と介護職員が連携を取っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には必ずお見舞いに行き、ご利用者の状態を把握している。また、家族と利用者の状態等を話し合いながら、ドクター・相談員と連携を取り情報を共有し、早期退院及び退院後の受入れ体制などを相談し連携をしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態に異変が見られる時は今後の方向性を兼ね、家族に報告や意見を聞きながら、必要時には医師よりの説明をして頂き、重度化・終末期の対応をどうするかを相談・検討し対処している。	ホームの方針を家族に説明し、重度化や終末期に向けた対応をしています。最近、看取りの実例もあり、家族と医師の話し合いなどの経験をもとに、職員の情報共有など、今後の対応が進められています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	誤嚥発生した場合、すぐ対応できるよう、サクシオン一式用意している。また、社内研修による緊急対応が実施されている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	非常灯設置、災害時の避難経路、場所、担当が決められ、年2回の消防職員立会いのもと全体避難訓練を行っている。また、災害避難時に混乱が起きないように居室ごとに移動手段を掲示している。	年に2回の昼夜想定での避難訓練が実施されています。スプリンクラーや非常灯などの完備に加え、避難経路や利用者個人の情報も即座に理解できる工夫のほか、住民協力の要請に努めています。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	敬語で声掛けし、きつい口調での声掛けは絶対しない。写真なども掲載不可の方は居室内に飾るなどの対応をしている。	写真の掲載などプライバシーの確保への気配りが視えます。職員と利用者との会話も丁寧な言葉かけが行われています。	慣れ親しんだ関係から生まれた会話の中にも、利用者の人格尊重が大切です。職員全員が、改めて日常の会話を振り返る機会を作られるよう期待します。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分で判断のできる方には自己決定できるように、声掛けし、できない方にも、日常の様子を把握し希望に添えるような対応をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その時々状態に応じて対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人・家族の意向を聞き訪問美容・美容または施設外の美容室を利用している。毛染めも対応し介助を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	楽しく美味しい食事ができるよう意見を聞き、下ごしらえや調理の手伝いなど、職員と一緒にやっている。	利用者への食事介助が多く、職員が共に食事はできませんが、利用者の側に座り、楽しい食事の会話に努めています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が献立の提供と摂取カロリーや栄養バランスを管理している。食事や水分摂取量を職員は概ね把握し、水分不足時は好みのものに変更している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの実施をし、洗浄剤による義歯の手入れも行っている。口の中に溜め込む入居者は口の中の物を全部取り出し清潔にしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の表情、行動、水分量を把握して、声掛けとともに定期的にトイレ誘導を行い、できるだけトイレでの排泄を心掛けている。	できるだけオムツに頼らない、トイレ利用の本来あるべき暮らしへの支援をしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	摂取可能な方には毎朝ヤクルトや食物繊維を含んだ食品で食事を提供している。日中、散歩や体操を適度に行い、予防と対応に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的に1週間に2回のペースでの入浴ですが、利用者から希望があれば、その都度、対応している。入浴中は、会話や歌を歌ったりと楽しく入浴して頂いています。	利用者の体調も見ながら週2回の入浴を楽しんでいます。利用者の要望により、その都度対応できる体制がとられています。職員は入浴での会話を大切にしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々に合わせて一日の生活の流れを整えている。不眠時は声掛けし不安等を聞き就寝前の団欒を持っている。どうしても不眠な方は医師に相談している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬は名前付きケースに入れる前・渡す時と名前を確認し、服薬後確認し名前記入し状態も観察している。薬の変更時には記載し情報の共有を図る。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各行事などを考え、個々に合った役割を持ち、また、ご家族にも積極的に参加して頂く事で楽しみが持てる様になっている。合同レク等を行い会話等楽しんでもらう。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の役割や、天候に応じて散歩、外出などの機会を作り、外出を楽しんでいる。	日常的な散歩のほか、毎月1回の系列グループホームとの合同の催しに参加、また、デイサービスに通う利用者との交流など、閉じこもり防止に努めています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	2週間に1度の買い物日には声掛けし、購入希望があればうかがい、支払いして頂く。(見守り支援する)			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話で連絡し話したいと希望される事がある場合、職員が代わりに電話の取次ぎ行っている。手紙ポストへの投函等の希望あった場合対応している。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	落ち着いて暮らせるように照明や窓のカーテンで調整している。テレビの音も音量を下げ、不快をなくしている。その季節ごとにお花を飾ったり、皆で工作した物やスナップ写真を貼って、家庭的な雰囲気である。	広々とした居間兼食堂は、日当たりも良く、安心の時間を過ごせる空間となっています。植物を設えた中庭では季節の花々が潤いを持たせます。厨房からは玄関の一部が見えるなど、見守りの一助となっています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間のソファで過ごして頂き、新聞や広告、テレビを見たり、歌のビデオを掛けたりと他に利用者との会話を楽しんだり、自由に過ごせる場所である。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた個人の家具や生活用品が持ち込まれており、みやすいところに置き安心して過ごせるようにしている。	広い収納スペースがあり、居室内は床暖房と相まって安心の空間となっています。壁には利用者の絵画の作品や写真が飾られており潤いの空間となっています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	調理・掃除など入居者に合わせて出来る事は見守りのもと行い、居室・トイレにわかり易く手作りの表札をかけて、場所の間違いや混乱を防ぐよう工夫している。			